

【取組3】能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり（その1） （プラン記載箇所：47、48ページ）

＜目指す姿＞

- ◆ 創造的復興には、**未来を担う子どもたち**が希望となることから、誰一人取り残されない**学びの機会**を提供する。
- ◆ 各校の特色や強みに一層磨きをかけつつ、**高校間の連携・交流**により、能登の魅力を生かした学びを推進する。
- ◆ 能登に誇りと愛着を持ち、**能登の復興を自らが担う人材**を育成する。
- ◆ **民間の力**も積極的に活用し、子どもや親世代も望む**創造性豊かな学びと子育てが実現できる能登**を目指す。

プラン掲載の取組 (別冊の掲載ページ)	内容	短期（～R7末）		中期（～R10末）			長期（～R14末）				
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
① 遠隔授業などICTを活用した学習環境の整備 【教育委員会】（100ページ）	生徒が減少していく中、生徒一人ひとりの多様な学習ニーズへの対応や生徒同士の学び合いの深化等を図り、質の高い学びを実現できるよう、高校におけるICTを活用した遠隔授業など、学びの環境の整備を進めます。	多様な学習ニーズへの対応や質の高い学びを 実践するため、ICTを活用した学習環境の あり方の検討		ICTを活用した遠隔授業などの実施							
② 能登地域の高校における魅力ある学校づくりの推進 【教育委員会】（101ページ）	高校は地域を担う人材の育成の場であり、地域の活性化に果たす役割が大きいことから、市町や地域とも連携しながら、各学校の特色や強みに一層磨きをかけるとともに、学校行事、部活動など高校間の連携・交流により、各学校を地域に維持しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。	行事や部活動の学校間連携、交流の あり方の検討		行事や部活動の連携・交流事例の創出							
③ 高校における創造的復興教育の推進 【教育委員会】（101ページ）	地震を契機に、能登の自然や人間、社会、文化、産業等を改めて学ぶことで、ふるさとの価値を実感するとともに、国内外の生徒等との交流や課題解決型学習を進めることで能登の復興を自らが担う人材を育成します。 全ての県立高校において、「創造的復興」をテーマとした探究活動を行うとともに、特に大きな被害となった奥能登の5校においては、高校と地域をつなぐコーディネーターを配置し、ふるさとの復興に向けた探究活動に取り組みます。その他の地域の全日制高校においても、震災遺構の見学や震災の語り部からの話を聞くなど、能登でのフィールドワークを通じた防災教育を推進します。	地域の各種団体と連携し、地域資源を活かした、復興に向けた課題発見・解決型学習の充実		「創造的復興」をテーマとした 探究活動の実施							
		国内外の学校等との交流推進による探究型学習の深化		能登地域以外の全日制高校において、震災遺構の見学震災など能登でのフィールドワークを通じた防災教育を推進							

現在の状況	今後の進め方
① 被災地外に避難した生徒が学びを継続できるようICTを活用したオンライン授業を実施 ・奥能登地域で教員が不足する科目で学校間での授業配信(遠隔授業)を実施 (R7～)	・多様な学習ニーズへの対応や質の高い学びを 実践するため、 ICTを活用した遠隔授業 などに取り組む先進地の事例研究や実施体制 を検討。 ・遠隔授業のモデル実施により授業担当者の 留意すべき点や課題の洗い出し。
② OECDと連携し、輪島高校の生徒による能登の復興を自ら考えるワークショップ(能登スクール)を開催 (R6.8.19～21) ・学校では、震災を教訓に、生徒自らがふるさとの未来を考える授業を実施	・ 全国募集校の拡大 や 地域のニーズに応じたカリキュラムの改善 など、能登の魅力を生かした学校づくりを推進。
③ 奥能登の高校に復興探究コーディネーターを配置(2名)し、地域資源を活かした学習活動や地域を超えた交流活動を実施 ・他地域の高校における能登でのフィールドワークを通じた防災教育を実施	・復興に向けた 課題発見・解決型学習の充実 や 国内外の学校等との交流推進 による探究型学習を深化。 ・震災遺構の見学や専門家等による講義の実施(R7.7～)




関連する指標 (R7.12末時点)	発災直後	R6.12末 時点	現 状	目 標
現時点で関連指標なし				
現時点で関連指標なし				
能登での防災教育実施学校数	—	—	31校	33校

【取組3】能登に誇りと愛着が持てるような「学び」の場づくり（その2） （プラン記載箇所：47、48ページ）

＜目指す姿＞

- ◆ 創造的復興には、**未来を担う子どもたち**が希望となることから、誰一人取り残されない**学びの機会**を提供する。
- ◆ 各校の特色や強みに一層磨きをかけつつ、**高校間の連携・交流**により、能登の魅力を生かした学びを推進する。
- ◆ 能登に誇りと愛着を持ち、**能登の復興を自らが担う人材**を育成する。
- ◆ **民間の力**も積極的に活用し、子どもや親世代も望む**創造性豊かな学びと子育てが実現できる能登**を目指す。

プラン掲載の取組 (別冊の掲載ページ)	内容	短期（～R7末）		中期（～R10末）			長期（～R14末）			
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
④ 子育てや学びの環境づくり 【能登半島地震復旧・復興推進部、健康福祉部、教育委員会】（102ページ）	能登で暮らす子どもたちが社会のさまざまな活動に参加でき、豊かに成長できる環境の実現に向け、子どもや親世代、年配の方々との世代間交流や、子どもたちがやりたいことを体験できる多角的なプログラムの提供など、さまざまなリソースを活用し、地域のニーズを踏まえ、能登で子育てがしたいと思えるような環境整備に向けた検討を進めます。 能登復興応援基金を活用し、能登官民連携復興センターにおいて、「子どもたちの心身の健やかな育成や、全世代的な学び、活動・交流の拠点づくり」などをテーマに事業の公募を行い、能登の未来を創る先導的な取組みを複数年にわたり支援します。 国事業等を活用し、市町・NPO等と連携したこどもの居場所づくり（遊びの提供や学習のためのスペース設置等）を推進します。		関係機関等との調整 必要とする機能や拠点のあり方などの検討 こどもの居場所づくり支援体制強化事業等を活用した市町・NPO等の事業主体への支援	基本構想・必要な整備	拠点の設置					
				能登復興応援基金を活用した「子どもたちの心身の健やかな育成や全世代的な学び、活動・交流の拠点づくり」の支援						

現在の状況	今後の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・被災地等における子どもの遊び場や自習室、親子が安心して過ごせる場所や交流機会の提供、子ども食堂等の設置運営等に係る支援を実施 ・被災地のこどもの居場所づくりについて市町と民間団体との連携強化に向け、被災地のこどもの居場所づくり支援ネットワーク会議を開催 (R7.7.29 第1回ネットワーク会議) (R7.10.22 第2回ネットワーク会議) ・宝達志水町以北在住の小中学生を対象にハイキングや磯遊び、イワナつかみなどの宿泊体験活動を実施 ④ 奥能登地区の小中学生を対象に、季節を感じる工作等の出前講座を実施 ・能登官民連携復興センターにおいて、「能登復興支援事業」の一次公募を実施。子どもたちの居場所づくり関係で2件の取組を採択。 ・取組の実現に向けた伴走支援を行い、子どもたちがのびのびと遊べるアーススポーツ施設「NOTO COMPLEX PLAYGROUND」(輪島市 R7.11.1) が、子どもたちや未就学児を持つ親子が集える場所として「すずっこひろば」(珠洲市 R7.12.25) がそれぞれオープン。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びや子育てに取り組む民間団体等との連携を強化し、ニーズに即した魅力ある場を創出。 ・随時ネットワーク会議メンバー同士の活動の進捗や取組課題を共有 (R8.2月 第3回ネットワーク会議の開催) ・引き続き国補助金等について周知。 ・引き続き、宿泊体験活動や出前講座を実施し児童生徒の心の復興を支援する。 ・能登復興支援事業の二次公募(公募期間 R7.9.24まで)の応募内容を審査し、助成先を決定する。 ・「子どもたちが遊び・学ぶことができる環境整備や、次代を担う多様な主体が活動・交流するための拠点づくり」の取組みを支援する。  

関連する指標 (R7.12末時点)	発災直後	R6.12末時点	現 状	目 標
子どもの居場所づくり実施団体数 (累計)	0 団体	30 団体	37 団体	—
自然体験キャンプの参加人数 (累計) (宝達志水町以北の小中学生)	0 人	63 人	260 人	300 人
季節を感じる工作等の出前講座の参加人数 (累計) (奥能登地区の小中学生)	0 人	178 人	553 人	700 人
新たに整備された子どもたちの居場所の利用者数 (累計) ① NOTO COMPLEX PLAYGROUND (輪島市) ② すずっこひろば (珠洲市)	—	—	① 1,132 人 ② 328 人	—